

講 義 要 項

授業科目		地域・在宅看護論援助論Ⅲ		担当者	瀬尾 まどか
区分	単位数	時間数	授 業 形 態		履修年次・前／後
	1 単位	15 時間	講義・演習・共同学習		2年次・前期・後期
授 業 目 標					
<p>1. 臨床判断の基盤となる知識と技術を身につけ、地域で生活する人々の生活の質と健康の向上を目指した看護の提供について理解できる。</p> <p>2. 多くの職種の専門性や役割を理解し、連携・協働・調整、チーム医療のあり方について具体的に述べる事ができる。</p>					
単元名	目 標	内 容	時間	単位	授業方法
1. 地域・在宅看護の思考過程	在宅での看護思考過程の特徴を学習し、生活を支援するための看護を解釈できる。	<p>1. 在宅における看護思考過程の特徴</p> <p>2. 思考過程の展開方法</p> <p>1) 情報収集とアセスメント</p> <p>2) 目標の設定</p> <p>3) 看護計画の立案</p> <p>4) 実施と評価</p> <p>5) 実施</p> <p>6) 評価</p>	2		講義
2. 多職種連携・支援のネットワークづくり (IPE)	個人・家族の総合的機能を解釈し、必要とされる看護を選択する中で、保健・医療・福祉チームの一員としての役割と連携を理解し、在宅療養を支える多職種の関り方を示すことができる。	<p>1. プロジェクト学習の導入</p> <p>2. 紙上事例演習</p> <p>1) 脳梗塞の療養者</p> <p>2) 排便管理 (摘便) を必要とする療養者</p> <p>3. 地域で生活する人々の健康課題</p> <p>1) 事例の情報についての各専門職種における支援方法</p> <p>(1) 各専門職種間のコミュニケーション</p> <p>(2) 看護職者からの具体的提案</p> <p>(3) 各専門職種間の意見交換</p> <p>4. 凝縮PF発表会</p> <p>1) 地域で健康障害を持ちながら生活する人々を支える各専門職種の役割</p>	12		講義 演習 共同学習
			修得試験	1	1
参考文献等	<p>1. 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 (1) 地域・在宅看護の基盤, 医学書院.</p> <p>2. 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 (2) 地域・在宅看護の実践, 医学書院.</p>				
評価	<p>1. 提出物(紙上事例展開)</p> <p>2. 授業態度</p>				
備考	実務経験：訪問看護師としての豊富な知識・経験をもとに授業を行う。				